



文部科学省

令和7年度 文部科学省 現職日本語教師研修プログラム普及事業

留学生に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	一般財団法人 日本語教育振興協会
事業名	留学生対象の日本語教師初任者研修 プログラム普及事業
事業実施期間	令和7年6月～令和8年3月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者139名中 研修修了者130名



研修報告の構成

■ 事業全体の概要

1. 初任者研修の目的
2. 取組の内容
3. 実施体制、実施委員の構成

■ 各研修の概要

1. 研修の狙い・特徴
2. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
3. 実施スケジュール・内容・教育方法
4. 募集方法
5. 受講者データ
6. 修了要件・修了率
7. 研修の様子
8. 研修中のフォロー

■ 受講者数及び修了者数の向上に対する取組

■ 受講生からの評価

1. 映像講義
2. オンラインワークショップ
3. 自己研修

■ 成果と課題

1. 成果と課題
2. 外部評価委員



■ 事業概要 (初任者研修の目的)



Development

日振協
日本語教師
初任者研修

日振協・初任者研修2025のカリキュラム概要

<研修のテーマ>

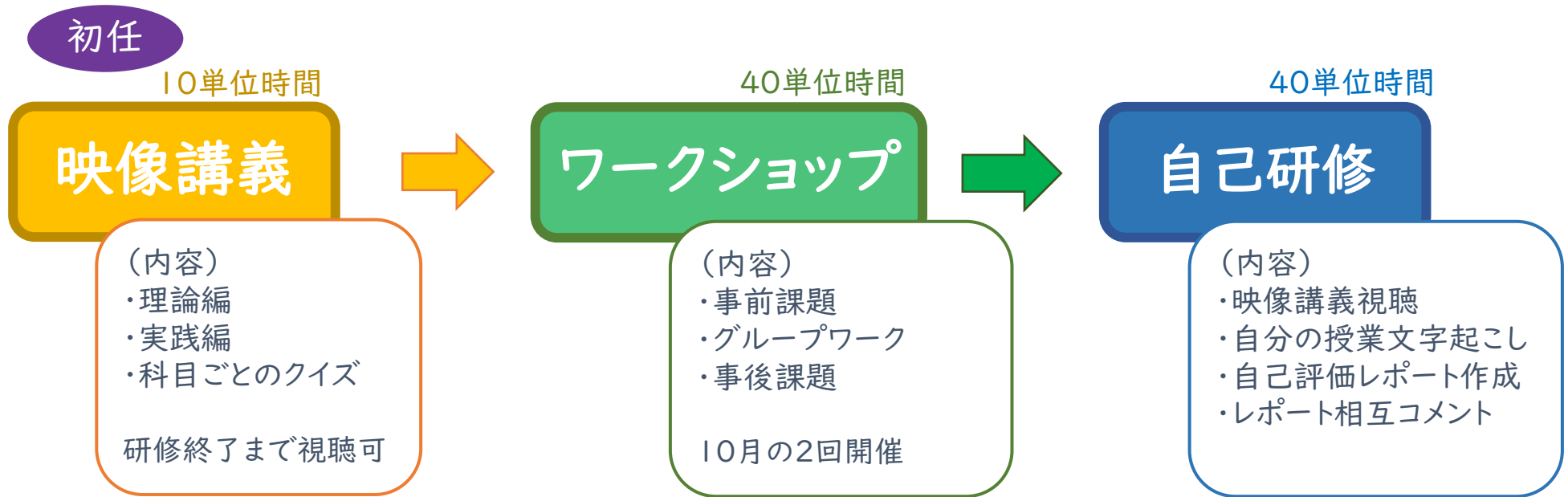


Development

- 21世紀型日本語教師としてのレベルアップ
 - 教室内外でデジタルツールや教育テクノロジーを活用する能力
 - キャリアビジョンの下、持続的な自己成長を目指す姿勢
 - 必要な知識理論を備え、現場の問題解決や意思決定が行える



■ 事業概要 (取組の内容)



Discord内で、フルオンラインながらいつでもグループメンバーと話し合いや相談ができる環境を提供



事業概要（実施体制）



Development

研修全体の組織図

日振協
日本語教師
初任者研修

評価

評価委員会

運営

外部委員
(教育工学の専門家)

初任研修
実施委員会

委員長 保坂敏子
日本大学通信教育部
通信教育研究所 研究員
日本語学校13名 他1名

日振協
事務局

初任研修
実施委員

ICT
チーム

初任研修

初任研修
受講者



■ 事業概要（実施委員の構成）

委員長	保坂 敏子	日本大学通信教育部 通信教育研究所	研究員
委員	山本 弘子	カイ日本語スクール	代表
委員	佐久間 みのり	(学)石川学園横浜デザイン学院 日本語学科	教務主任
委員	中島 正恵	岡山外語学院	教務主任
委員	森下 明子	岡山外語学院	副理事長
委員	大野 貴子	ノースリバー日本語スクール	校長
委員	伊藤 裕	アジア日本語学院	教務主任
委員	渡辺 寛成	HGI日本語学院	専任教員
委員	野口 亮子	大阪YMCA学院	教務副主任
委員	道上 陽介	専門学校アリス学園	教頭
委員	北 琢磨	東京明生日本語学院	学院長
委員	正多 宏美	一般財団法人 海外産業人材育成協会	講師
委員	日比野 早紀	長野平青学園 日本語科	教務主任
委員	速水 希樹	ECC日本語学院名古屋校	校長
委員	佐々木 涉	(学)石川学園横浜デザイン学院 日本語学科 日本語研究科	学科長
委員	鈴木 克明	武蔵野大学 響学開発センター	教授



■ 各研修の概要（研修の狙い・特徴）

「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」に示された「日本語教師【初任】（留学生）研修における教育内容」を軸に「実践的能力」として次の3つの資質・能力の養成に裨益することを目的としている。

- ①自律的・持続的な成長力（自律性、持続性、自己研鑽、実践・経験、内省・省察）
- ②対話力（教師間協働、学習者への対応、問題解決力、対人スキル）
- ③専門性（専門的知識、実践力）

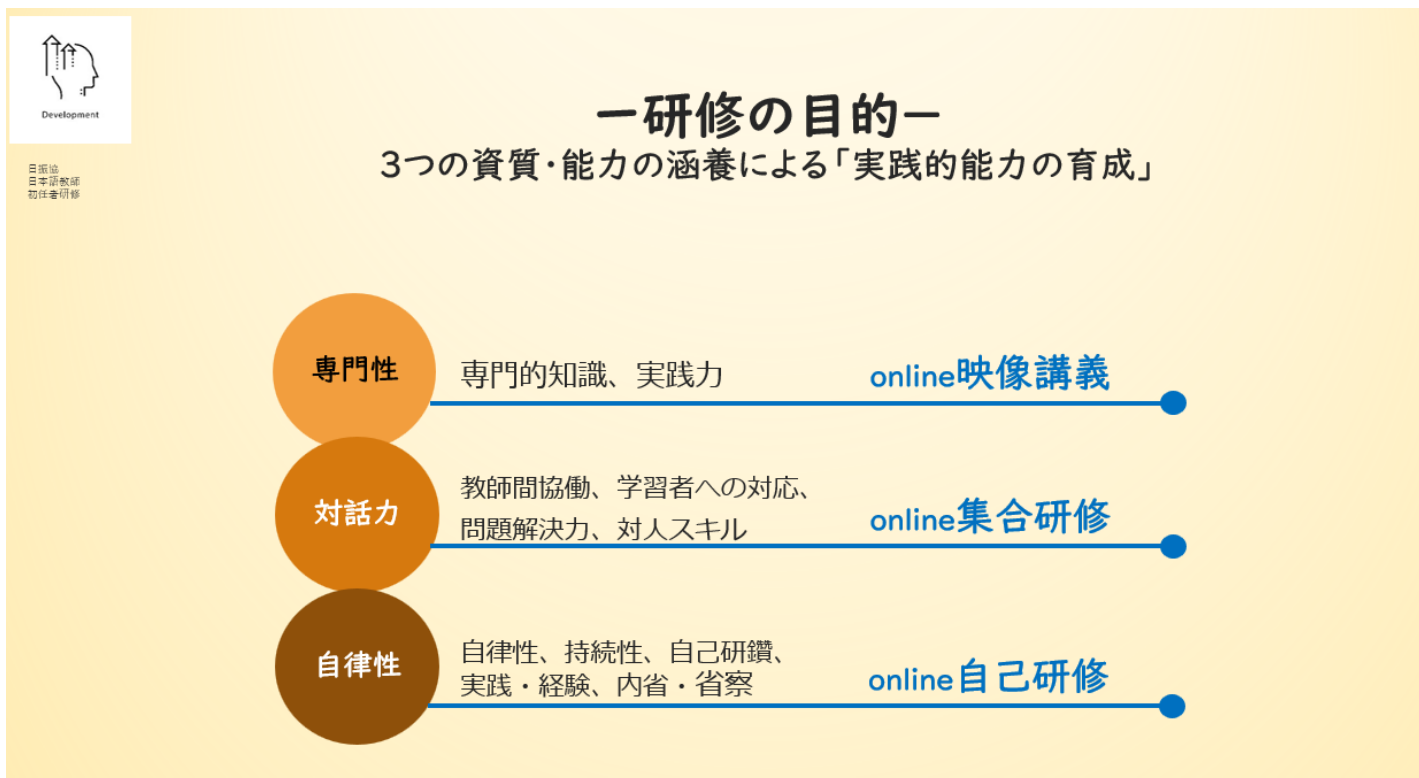
この研修は「オンライン映像講義」と「オンライン集合研修」と「オンライン自己研修（自律的学習）」の三位一体の編成となっていることが大きな特徴である。日々業務に追われている受講者も、オンライン集合研修以外は、空いている時間を利用して研修に取り組むことができる。この3種類の研修を受講することにより自律的に学び続ける力が養成される。



■ 各研修の概要（求められる資質・能力と研修における教育内容の関係）

本研修は、下記の図のように「専門性」「対話力」「自律性」の三位一体のプログラムにより、総合的に「実践的能力の育成」を目指したものとなっている。

その内容は平成31年度報告に準拠しており、知識・技能・態度で求められる資質・能力の向上に裨益するものである。





■ 各研修の概要（実施スケジュール・内容・教育方法）

1. 映像講義

視聴とクイズ回答

方法		授業項目	サブタイトル	時間	担当講師
1	オンライン	日本語教育・日本語教育機関の変遷	言語教育界のパラダイム・シフトをめぐって	0:49	西原鈴子
2	オンライン	日本語教育機関の役割と可能性	日本語教育機関の変遷と現状、 日本の留学生の受け入れ施策－留学生の入国と在留の手続き	0:50	加藤早苗
3	オンライン	日本語留学生の背景	モチベーションと教育制度Ⅰ（学生の背景と授業、東アジア）	0:43	奥田純子 亀田美保 山本弘子
			モチベーションと教育制度Ⅱ（東南アジア、南アジア、欧米）	0:52	
4	オンライン	日本語教育の参照枠	「日本語教育の参照枠」の概要	0:45	奥村三菜子
5	オンライン	目的別指導法	教案を書こう	0:54	倉本文子
6	オンライン	教材作成	学習者にあった教材を作る	0:46	藤本かおる
			授業にICTを取り入れてみよう	0:44	
7	オンライン	オンライン授業法	オンライン授業の基礎と注意点	0:45	藤本かおる
8	オンライン	評価法	学習を評価する	0:39	高橋薫

※2は内容を更新、4は新たに追加した映像講義



■ 各研修の概要（実施スケジュール・内容・教育方法）

2. 集合研修（ワークショップ）

		主な内容	講師
9月3日(水)	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション動画配信(9月1日～) ・研修概要説明、実施体制、スケジュール ・LMSの利用方法、オフィスアワー等の説明 ・委員メンバー紹介、グループでの自己紹介 	保坂敏子委員長他 ICTサポート
19:00～21:00	(オンライン)		
10月4日(土)	ワークショップ①	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語教育の参照枠」の理解 ・AIを利用した指導案作成の方法の理解 「日本語教育の参照枠」の視点からのCan-doベースの指導案の特徴の理解 AIコーチングによる指導案作成の理解と実践 	保坂敏子委員長、山本弘子委員、伊藤裕委員
19:00～21:00	(オンライン)		
10月18日(土)	ワークショップ②(東G)	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語教育の参照枠」の視点からの指導案の検討・相互コメント (事前課題)AIコーチングによる指導案作成 AIやグループでの協働による指導案の評価、改善 	佐久間みのり委員、道上陽介委員、佐々木渉委員
14:00～17:00	(オンライン)		
10月25日(土)	ワークショップ②(西G)	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語教育の参照枠」の視点からの指導案の検討・相互コメント (事前課題)AIコーチングによる指導案作成 AIやグループでの協働による指導案の評価、改善 	森下明子委員、中島正恵委員、野口亮子委員
14:00～17:00	(オンライン)		



■ 各研修の概要（実施スケジュール・内容・教育方法）

3. 自己研修

		主な内容	講師
10月19日(日)	映像講義 (オンライン)	演習(自己点検) ①教育実践についての内省(0:44) ②授業分析-前向きな振り返りのために-(0:49)	金田智子先生(学習院大学文学部教授)
10月26日(日) ~11月23日(日)	自己点検実習 (勤務校)	①自分の授業を撮影する ②録画した授業を文字化する ③分析の目的に合った手法を映像講義の分析観点から選ぶ ④選択した手法に沿って自分の授業を分析する ⑤分析結果をレポートにまとめる	-
11月24日(月) ~11月30日(日)	相互評価 (Padlet上で実施)	互いのレポートに相互コメント	-



■ 各研修の概要（募集方法）

日本語教師の養成及び現職日本語教師の研修事業文部科学省委託
令和7年度 留学生に対する日本語教師
【初任】研修



Development

フルオンライン研修で様々なICTツールの適切な活用について学べるチャンス

期間中は一流の講師陣による映像講義を繰り返し視聴可能

日本語教育の参照枠を授業に活かす方法を学び、教師としてレベルアップ

全国の教師と連携・協力することで他者とつながる意味を学べる

修了が認定されると文部科学省HPの修了者リストに名前が載る（任意）

修了者には文部科学省へ申請後、オープンバッジが発行される（任意）

受講期間 2025年9月3日(水)～2025年11月30日(日)
(90単位時間履修)

申込締切 8月10日(日) 17:00

対象・募集人数 告示校に採用されて原則 3年以内の方 140名
(お申し込み内容に基づき、参加資格を確認させていただきます)

受講料 18,000円 (消費税込) 教材費は含まれています。

【募集方法】 チラシ・研修案内を作成し、各所へ配布

【募集期間】 令和7年7月～令和7年8月

【募集媒体】 日振協ウェブサイト、会員校ML、日振協研究大会参加者、関連学会、出版社、実施委員の協力など



お申込前に研修案内をお読みください。
<https://www.nisshinkyoo.org>

お問い合わせ nisshinkyoshonin@gmail.com

一般財団法人日本語教育振興協会

こちらのQRコードから
ご応募いただけます





各研修の概要（初任受講者データ）

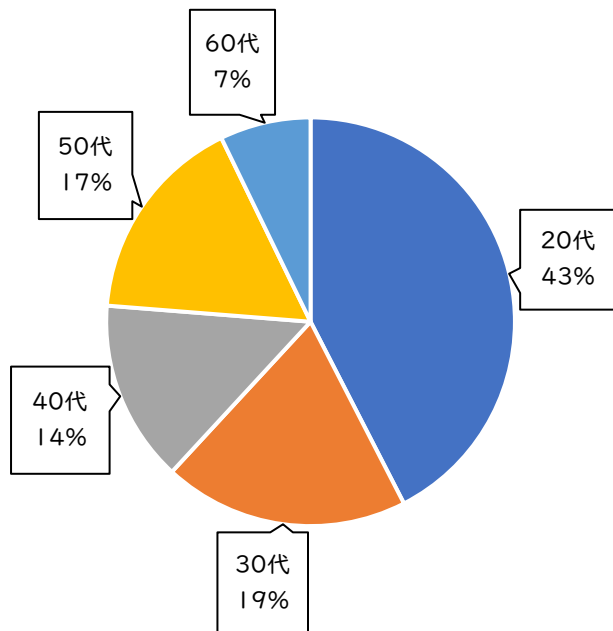


募集：140名

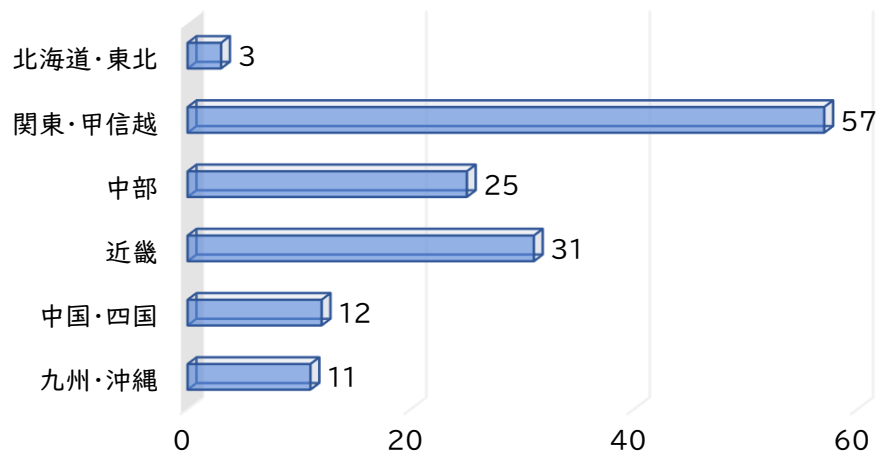
受講者数：139名

修了者：130名

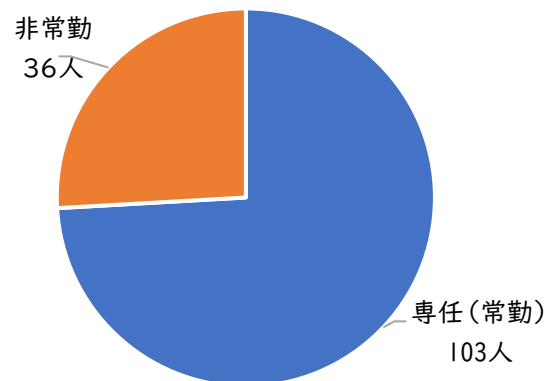
受講者の年代分布



地区別受講者数



勤務形態





■ 各研修の概要（修了要件・修了率）

初任者研修

修了率 93.5%

【修了要件】

- 全ての講義を履修（全てオンライン）
（①映像講義、②集合研修、③自己研修）
- クイズ・課題提出・出席・相互コメント
- ①②③で70%以上の得点を取得すること





■ 各研修の概要（研修の様子 – 映像講義）

LMS【eden】による オンライン講義

コース一覧

0-0. edenスタートガイド

Edenにようこそ！ 3カ月間、Edenでしっかりと学習をしてください。Edenの操作について、まずはこちらを覗いてみてくださ...

0-1. 受講ガイド

この初任者研修での学び方のガイドを掲載しています。また、この研修ではICTツールの使い方などをZOOMで直接、聞ける「...

1-0. 【映像&クイズ】日振協2025 初任者研修 映像...

研修の最初のコースです。講義動画を視聴して、理解度確認クイズに答えてくださ

2-1.日振協2025 初任者研修 集合研修【全国共通...

オンライン集合研修のコースです。オンラインのワークショップ①に参加した後に、

映像教材（講義）

映像講義

Step1 言語学習・教育のパラダイムシフト

文化庁委託
日振協
日本語教師
初任者研修

日本語教育・日本語教育機関の変遷

言語教育界のパラダイム・シフトをめぐる Step1

西原鈴子

0:00 / 15:59

自動スクロール

講義の概要は

- 00:00:32
まず講義の目的ですが、
- 00:00:34
日本語教育を世界の言語教育の潮流の中に位置付けて理解すること
- 00:00:42
講義の目標としては、
- 00:00:45
言語学習・教育に関するパラダイムシフトを理解すること
- 00:00:51
日本語教育界の展開を理解することです
- 00:00:55
概要は以下のとおりです
- 00:00:58
まず、言語学習教育のパラダイム・シフト、
- 00:01:03
次に日本語教育界へのパラダイム・シフトの影響、
- 00:01:09

映像教材（クイズ）

【クイズ1】日本語教育・日本語教育機関の変遷～言語教育界のパラダイム・シフトをめぐる～

01.

1. 言語教育界の展開を理解すること

2. 言語学習教育のパラダイム・シフト

3. 日本語教育界へのパラダイム・シフトの影響

02/01

戻る

※上記は「平成30年度文化庁日本語教育人材養成研修カリキュラム等開発事業」で作成した日振協オリジナル教材です。



■ 各研修の概要（研修の様子－ワークショップ①）

ワークショップ①

「日本語教育の参照枠」の理解

AIを利用した指導案作成の方法の理解

日程

2025年10月4日(土) 14:00-17:00 (Zoom)

事前課題

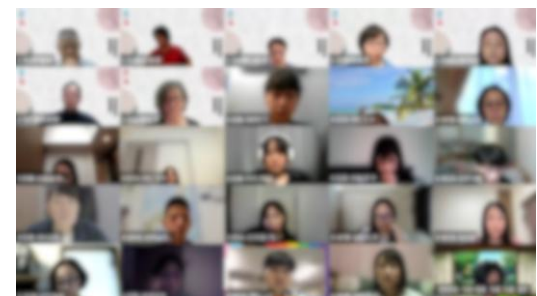
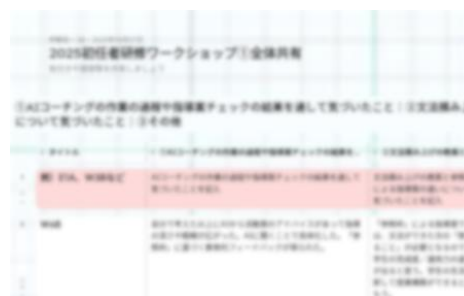
- ・『日本語教育の参照枠』を読む。
- ・『日本語教育の参照枠』を読んで、重要だと思ったこと、疑問に思ったことを記入する。
(100字以内・要点が分かるように) ※Google フォームにて提出

ワークショップ①の趣旨

- ・「日本語教育の参照枠」を理解する
- ・AIを利用した指導案作成の方法を理解する

ワークショップ①のゴール

- 日本語教育の参照枠を理解する
- 日本語教育の参照枠の視点からの Can-do ベースの指導案の特徴を理解する
- AI コーチングによる指導案作成の方法を理解する





■ 各研修の概要（研修の様子－ワークショップ②）

ワークショップ②

「日本語教育の参照枠」の視点からの指導案の検討・相互コメント

日程

東 2025年10月18日(土) 14:00-17:00 (Zoom)
西 2025年10月25日(土) 14:00-17:00 (Zoom)

事前課題

- ・オンライン映像講義理論編・実践編を視聴しておく
- ・ワークショップ①で学んだ AI コーチングの手法で、指導案を作成する

ワークショップ②の趣旨

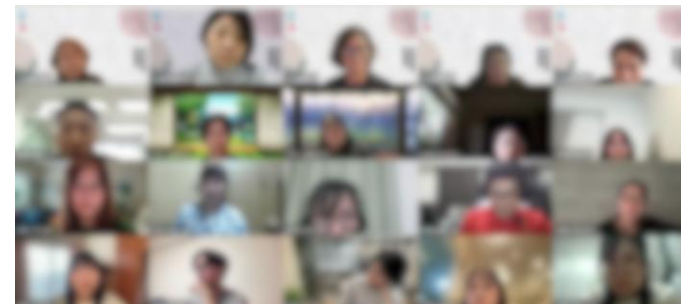
研修期間内の映像講義の理解をもとに、ワークショップ①で学んだAIコーチングを利用して実際に作成した教案を、参加者同士で対話しながら、評価・改善ができるようになることを目指す

ワークショップ②のゴール

- 参照枠を参照した Can do ベースの授業案を作成できる
- AIを利用したり、他者と対話しながら教師としての課題解決ができる
- AIについて批判的な視点で教案を再構築できる

事後課題

- ・ワークショップ②での話し合いをもとに修正した指導案を提出
- ・ワークショップ全体を通しての「気づきレポート」を提出





■ 各研修の概要（研修の様子 – 自己研修）

「自己点検用」
映像講義の
視聴

- ・内省と振り返り
- ・クイズに回答

LMSで自動採点

自分の授業の
分析（実習）

- ・授業を撮影、
文字化
- ・分析方法を選択
レポート作成

委員が
ルーブリック採点

相互コメント

- ・3名のレポートに
コメント

委員が
ルーブリック採点



■ 各研修の概要（研修中のICTサポート）

ICTサポート



オフィスアワー（週1回程度 20:00-22:00）

- ・ ICTスキルの向上及びサポートを希望者に実施



LMSの管理、運営サポート

- ・ 技術サポートの専門家チームが管理、質問にも対応



■ 各研修の概要（研修中の連絡ツール）

Discord（コミュニケーションツール）

研修の情報（受講者、委員、事務局）は全てここに集約

グループチャンネル

- ・ワークショップ事前・事後活動
- ・いつでもやり取りや話し合いが可能

ICT問い合わせ チャンネル

- ・オフィスアワーを利用できない人はここでいつでも質問ができる

ダイレクトメール

- ・個人への連絡はDMで

各種お知らせや 資料の共有

- ・ワークショップのURL
- ・案内や課題の共有



■ 各研修の概要（研修修了者へのフォロー）

修了者ネットワーク



日本語教育の情報提供の場

- ・LINEオープンチャットでこれまでの修了者が参加
- ・実施委員から新刊や文科省の発表、留学生に
お得な情報などを配信

情報発信が主でやりとりはDiscordで。
修了者もイベントに参加し受講者と交流



■ 受講者数及び修了者数の向上に対する取組

受講者数

前年度
99名

40名増

今年度
139名

応募者	151名
受講決定	142名
受講者	139名

日本語教育関係の媒体への
情報掲載により受講者数UP

修了率

前年度
89.9%

**3.6
ポイント増**

今年度
93.5%

研修全体のミニマム化と
グループリーダー制の導入により
修了率UP



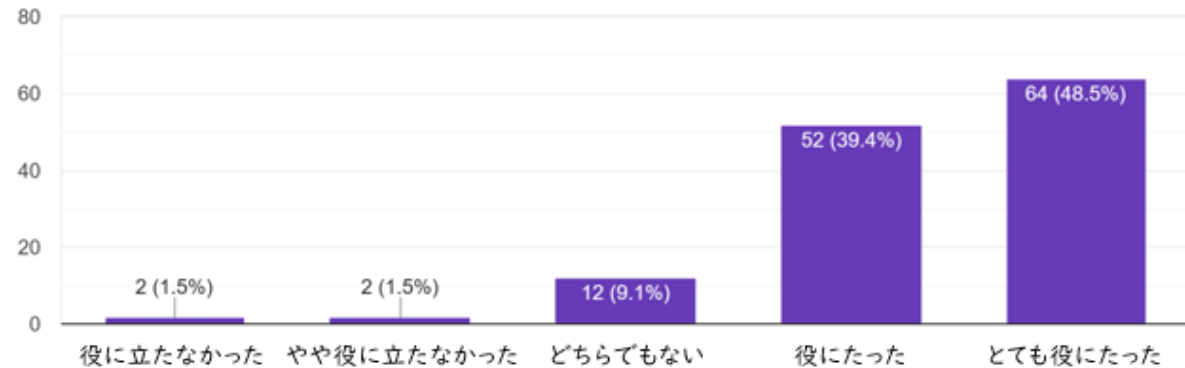
■ 受講生からの評価

「映像講義」の評価

(ワークショップ①終了時)

87%以上が役に立った・とても役に立ったと回答

1-2 映像講義の内容はいかがでしたか。



◆コメント

- ・ 留学生の国ごとの背景を知ることによって、普段関わる学生と関連付けて捉えることができ、理解が深まった。
- ・ 学生の出身国による傾向や教育システムなどがまとめられていて大いに参考になった。
- ・ 参照枠という言葉や日本語教育が大きく変わったことだけは知っていたが、その背景や理由が理解できた。また、参照枠に基づいた具体的な評価法や教材教案作成方法を知ることができて、指導に役に立った。
- ・ 何のために教案を作るのか、教案を作るときに何を考えなければならないかを振り返って、実際に授業に役立てることができた。
- ・ オンラインでの授業はしたことはありませんが、今後、オンライン授業をすることがあれば、映像講義で出てきた留意点を参考にして授業を行おうと思いました。
- ・ 現場でルーブリックを活用しようという動きがあるので、評価法について学ぶことができてよかった。



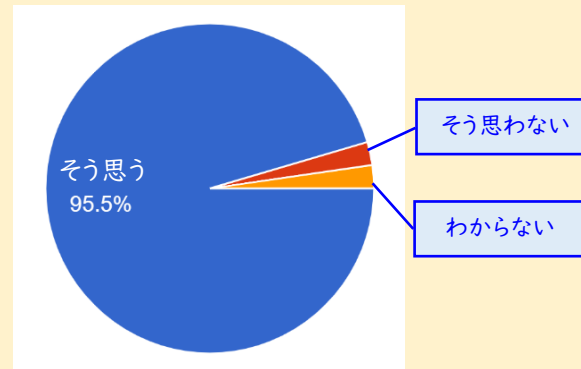
■ 受講生からの評価

オンラインワークショップ①

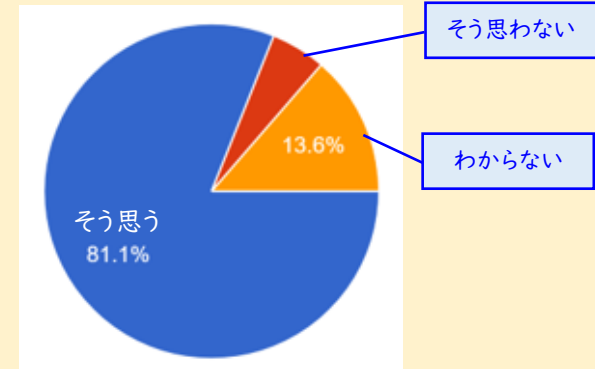
「日本語教育の参照枠」の理解

AIを利用した指導案作成の
方法の理解

「日本語教育の参照枠」の理解が進んだ。



AIコーチングによる指導案作成のやり方が
理解できた。



◆コメント

- ・ 初めてAIを使って教案を作成した。参照枠に沿った教案作成も初めてだったので、理解が進んだ。また行動中心アプローチに基づく授業を作る上でとても役立つものになった。
- ・ 全くイメージできなかったAIコーチングというものが体験できた。
- ・ AIへの指示の出し方や具体的な案をくれるところなど進め方がわかった。
- ・ あえて答えを言わないでアドバイスをくれるようにして、進めていくことで自分で考える力が養えた。
- ・ AIコーチングによる指導案の作成を実際に行ったことで、良い点、悪い点を確認でき、今後、実際の学校現場でも今回学んだものを応用できるイメージを掴めた

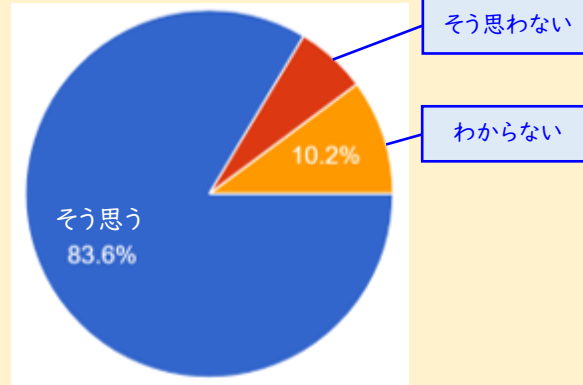


■ 受講生からの評価

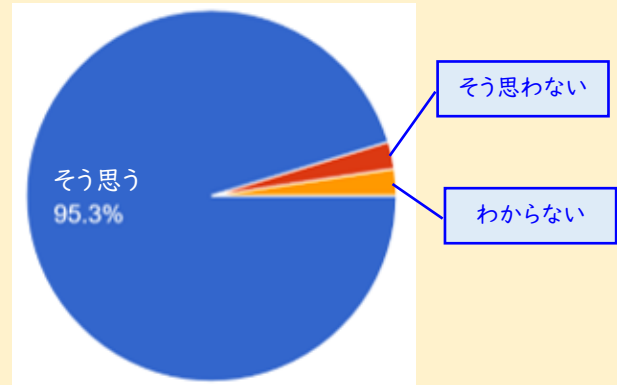
オンラインワークショップ②

「日本語教育の参照枠」の視点からの指導案の検討・相互コメント

映像講義の内容に基づいて指導案を検討できた。



AIを利用したり、他者と対話しながら教師としての課題解決ができた。



◆コメント

- ・ 自分の目では気づけなかった教案の矛盾点をグループワークで指摘してもらえてとても良かった。また学生の立場から行動目的を意識することの大切さも再認識した。
- ・ 日本語教育の参照枠や行動中心アプローチについて、理解が深まった。教案にどう反映させるか、イメージができた。
- ・ AIに頼るだけでなく、自己評価や検討、他の人との対話による検討はやはり必要だなと感じた。
- ・ 今の時代、「他者」とはAIも含まれるんだ、と実感しました。日々の授業準備に取り入れ、効果的な授業ができたらいいと思いました。対話によって、自分では思い浮かばない案などをもらうことができ、視野が広がりました。
- ・ 今まであまりAIに対していいイメージを持っていませんでしたが、今回AIコーチングを学んで自分の授業を客観的に見直したり、自分がどこに重点を置いて教案を作成しているのかなどを知ることができて便利さを実感しました。

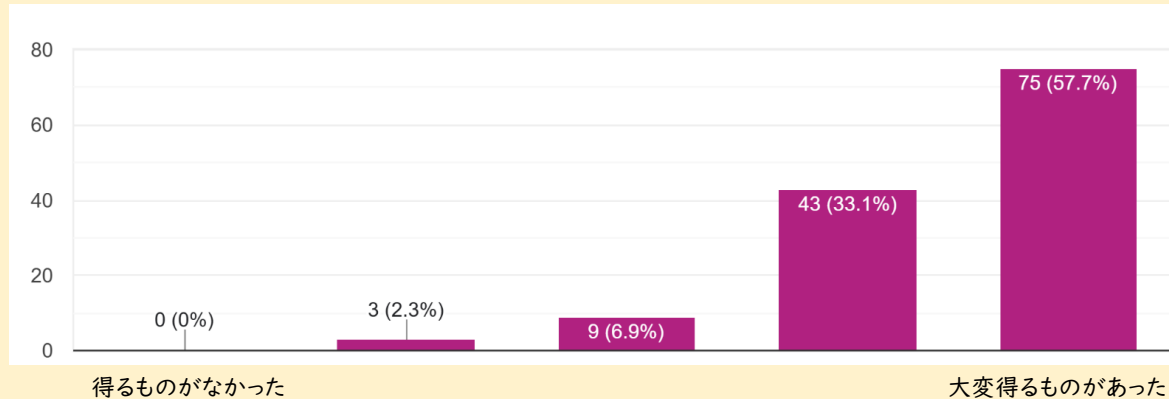


■ 受講生からの評価

「自己研修」の評価

90%以上が得るものがあった・
大变得るものがあったと回答

自己研修の満足度



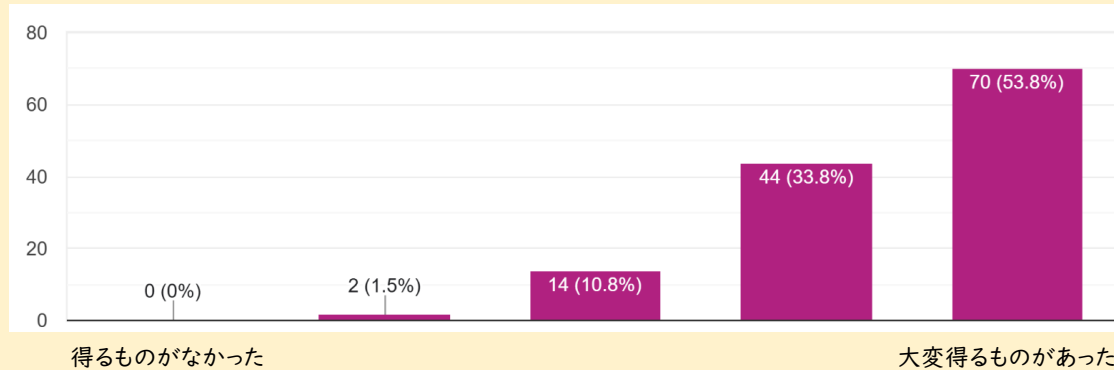
◆コメント

- 映像講義では、授業や資料の作り方など、今まで学んだことがなかったことを体系的に学べた。最後の授業分析の課題は、大変だったが、自分や他の人の授業を客観的に分析する良い経験となった。
- 自分自身の発言が学生よりも多かったと客観的に分析できたのは良かった。これからは、学生が主体になるような授業にすることや、学生から発話を引き出せるような声掛けを意識していくのを課題とする。
- 自身の授業を動画に撮るのは初めての試みで少し抵抗はあったのですが、実際に授業の動画を見返してみると授業時の立ち位置、しぐさ、自分では気づかなかった言葉の癖などに気づき改善しようと思えることができ、得られたものは多かったです。
- 客観的に分析したものを実際の授業で試したところ、劇的に学生の反応が変わりました。自己分析、自己研修をすることがいかに大切かを実感しました。
- 自分の授業を録画して振り返りを行う希望は以前から持っていましたが、この研修を通じて実行に移すことができました。授業を振り返る際の考察の着眼点や分析方法も映像授業で学ぶことができ、得るものが多い研修でした。



■ 成果と課題

研修全体の満足度はいかがでしたか。



成果

1. 研修内容の満足度

アンケートの結果から、研修全体についての満足度が高いことがわかる。特に、オンラインワークショップでは「日本語教育の参照枠」の理念浸透と「AIによるコーチング」の導入を二本柱とし、対話と協働を重視したワークショップを展開した結果、受講生満足度は高い評価を得た。

2. 修了率の高さ

修了率は93.5% (130名 / 139名中) と高く、修了式にも35名が参加し、その後の懇親会では交流も活発に行われた。



■ 成果と課題

成果

3. 研修全体のミニマム化

今年度は募集人数が140名と例年より多くなったが、研修全体のミニマム化のために映像講義の数も21から12へと減らし、研修期間も約半年から3カ月の短期間での修了を目指した。また、前年度まではオンライン同期型で実施していたオリエンテーションで、研修の概要と受講方法については事前に動画を視聴する形にした。

4. 「グループリーダー制」の導入

育成研修生によるサポートが廃止されたことから、新たに「グループリーダー制」を導入し、受講者の中から各グループのリーダーを立て、研修の喚起を行った。受講者同士が連携し、主体的にかつ自律的に取り組んだことが、高い修了率に繋がったと考えられる。

5. LMSの見直し

LMSを「gacco」から「eden」へと刷新したことで大幅なコスト削減を実現しつつ、安定した視聴環境と課題提出の円滑化を図った。

6. ワークショップを教育現場の最新課題にアップデート

初任者研修では21世紀型教師の育成を目指し、様々なICTツールを活用し、グループでの対話力を重視したワークショップを毎年テーマを変えて実施している。2023年度からは教育現場が無視できなくなった生成AI、また日本語教育の参照枠をワークショップの中にも取り入れているが、生成AIは前年度とは違うAIコーチングという手法に注目した。ワークショップの内容も参照枠の理解や指導案作成にAIコーチングを活用する方法を実際に受講生が一人一人体験する内容に変更した。また日本語教育の参照枠は新たに奥村三菜子氏に動画作成を依頼し、映像講義の一つに新たに加えた。



■ 成果と課題

成果

7. 対面イベントの開催

例年8月に代々木オリンピックセンターで行われている日本語学校教育研究大会への参加を呼び掛け、実際に対面で委員や受講生との交流が見られた。

課題

1. LMSの変更による研修への影響

変更に伴う準備期間の不足により、受講に関わる情報発信の遅れや運営上の課題が残った。

2. 映像教材の見直し

ミニマム化により、映像講義の数は減っているが、新しい映像講義は1つを加え、1つの内容を更新するにとどまった。内容自体も2020年に作成されたものがほとんどで、昨年度の課題にあるように更新が求められる。一方で更新にはそれなりの経費や準備期間がかかるため、契約締結から準備を始めるには期間が足りない現状がある。

3. 実施時期の検討

今年度の実施時期は9月～11月末で、12月末までには修了者を決定することができたが、学校行事の多い時期であり、日本語教員試験の実施時期でもあるため、参加しにくいとの意見が委員・受講者双方から聞かれた。



■ 成果と課題

評価委員会

5名の委員による事業評価委員会を組織し、2回(1,2月)の評価委員会を開催した。

- 委員長： 亀田美保 (大阪 YMCA 日本語教育センター センター長)
- 委員 : 佐久間みのり (石川学園横浜デザイン学院日本語学科 教務主任)
- 委員 : 佐々木倫子 (桜美林大学名誉教授)
- 委員 : 西原鈴子 (NPO法人 日本語教育研究所 理事長)
- 委員 : 西郡仁朗 (東京都立大学名誉教授)

<成果>

- ・受講者アンケートからは、研修に対する満足度の高さがうかがえる。特に、本年度は、「日本語教育の参照枠」への理解の深まりとICT活用のスキル向上を実感する受講者が多くいた。
- ・研修目的の「自律性・対話力・専門性」の涵養に基づく「実践的能力の育成」が達成されたことが、受講者アンケート及び「資質・能力自己チェック研修前後」の結果より確認された。



■ 成果と課題

<成果>

- ・全行程フルオンラインによる実施で、全国各地から受講者を集め、地域格差の解消に寄与した。
- ・受講者同士が研修中グループを通して交流を深め、支え合うことにより修了率が高く維持された。

<課題>

- ・受講者グループの活性化、グループリーダーを支える委員の役割、困り事や質問への対応については、今後も改善の余地がある。
- ・委員間の情報共有・意思決定の過程について、さらに迅速に行えるよう見直しが必要である。
- ・ICT活用も含め、運営体制・方法について、さらなる簡素化を図る必要がある。
- ・受講者及び研修修了者のネットワーキングを促進する取り組みを検討する。